事 務 連 絡
平成24年10月1日

関係者 各位

関東東海北陸農業試験研究推進会議
関東東海・土壌肥料部会長 加藤 直人

平成24年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議 関東東海・土壌肥料部会の開催について

標記会議の開催については別途公文でお知らせ致しております。下記のとおり実施致しますので、関係者のご出席と資料作成をお願い申し上げます。

記

1.開催日時:平成24年11月5日(月)13:00～17:15

2.開催場所:中央農業総合研究センター本館1階 大会議室

3.議事次第

挨 拶 13:00－13:10

1)重点検討事項 「地域有機性資源の肥料原料としての利用促進」 13:10－14:00

講演:肥料公定規格の改正による堆肥や動物排せつ物の肥料原料利用(仮題)

農林水産省消費・安全局農産安全管理課 課長補佐(肥料企画班担当) 田村 勉

2)地域研究・普及連絡会議で取り上げられた国が推進すべき技術的課題に関する検討 14:00－15:00

休 憩 15:00－15:15

3)都県・独法の研究成果の相互の紹介 15:15－16:15

部会としての「イチオシ」を検討(農業技術200X の推薦候補)

4)分野における研究情勢に関する意見交換 16:15－17:00

5)その他 17:00－17:15

4. 提出資料、締め切り日

1)研究成果

研究成果の相互紹介に使用します。説明時間が限られている(質疑を含めて5分以内/各都県)ことにご留意ください。

特定の様式を定めませんが、昨年度までの研究成果情報のような資料が検討しやすいかと考えております。A4縦置きで余白を各々25mm 以上。

※平成23年度にまとめられた研究成果が中心となりますが、それ以前または以後の成果であっても、農業技術200Xとして普及すべき候補となる研究成果は対象とします。

2）都県における研究情勢

特定の様式は定めません。A4縦置きで余白を各々25mm 以上。

※都県において実施中の課題、今後推進すべき研究問題、その他研究情勢などをお示しください。

3）部会に対する要望事項

特定の様式はありません。A4縦置きで余白を各々25mm 以上。

4）水田土壌 pH の実態について

土壌保全事業における定点調査の1巡目～6巡目までの pH 分布割合や交換性塩基の推移のデータを提供願います。例として富山県の公表データ(図 1)を添付します。

6巡目データが無い県もあると思いますが、その場合、5巡目までででも結構です。ご協力よろしくお願いします。

資料はメール添付ファイルとして、10月30日（火）午後 5 時までに、部会事務局 hasimoto@affrc.go.jp へ提出してください。

5. 会議・情報交換会参加、及び宿泊申し込み

添付する「2012関東東海土肥(参加宿泊申込書)」に必要事項を記入し、10月24日（水）午後5時までに部会事務局宛(hasimoto@affrc.go.jp)にお知らせください。

○情報交換会について

日　時：11月5日（月）18：00～

場　所：筑波事務所共同利用施設食堂

参加費：3,000 円

※なお、参加申し込み状況によっては中止する場合もあることをご了解ください。

○研修宿泊棟について

詳細は、中央農研のホームページ上にある研究交流の広場（http://www.naro.affrc.go.jp/narc/kenkyu_koryu/index.html）をご覧ください。また、宿泊棟に関するお問い合わせは、直接中央研宿泊予約担当(narc-kouryu@ml.affrc.go.jp)へお聞きいただくことも可能です。

6.部会事務局

中央農業総合研究センター　土壌肥料研究領域　橋本知義

TEL：029-838-8827　FAX：029-838-8837

E-mail：hasimoto@affrc.go.jp

〒305-8666　つくば市観音台 3-1-1

○普及上参考となる技術

［タイトル］県下水田土壌の変化と実態（６巡目調査結果）

［要約］作土のｐＨ（平均値）は４巡目調査（H6~9 年）に次いで低い値となり、ｐＨ５未満の点数割合は最も多くなっている。作土の有効態リン酸は全体の 23%、交換性カリは 39%、有効態ケイ酸は 95%が基準値を下回っており、極端に低い地点もみとめられる。

［キーワード］水田土壌、ｐＨ、有効態リン酸、交換性カリ、有効態ケイ酸

［担当場所・課］農林水産総合技術センター　農業研究所　土壌・環境保全課

［連絡先］電話　076-429-5248、電子メール　jun.koike@pref.toyama.lg.jp

［背景・ねらい］

県下全域に設定した定点ほ場（62 地点）を経時的に調査（１巡目：S54～57、２巡目：S59～62、３巡目：H1～4、４巡目：H6～9、５巡目：H11～14、６巡目：H16～19）することにより、土壌の理化学性の変化を把握し、地力増強対策の基礎データとする。

［成果の内容・特徴］

1　作土のｐＨ（平均値）は 5.60 となり、H6～9 年の 5.58 に次いで低い値となっている。また、ｐH5 未満と極端に低い値を示す地点が増加している（図１）。

2　沖積土壌・砂質～壌質のリン酸含量平均値は基準値 10mg より 15~20mg 程度高いレベルで推移している。また、基準値を下回る地点もほとんどみとめられない（図２－左上）。

沖積土壌・粘質及び洪積土壌のリン酸含量の平均値も基準値 15mg を上回っているが、36%の地点は基準値に達していない（図２－右上）。

全体では 23%が基準値未満となっている。

3　沖積土壌・砂質～壌質の交換性カリ含量平均値は平成 6～9 年調査まで上昇傾向にあったが、その後減少傾向にあり、今回の調査では基準値 15mg を下回っている。基準値を下回った地点の割合は 42%である（図２－左中）。

沖積土壌・粘質及び洪積土壌のカリ含量平均値の推移も同様の傾向を示しているが、今回の調査では 28.9mg と基準値 20mg を上回っている。しかし、36%の地点は基準値に達していない（図２－右中）。

全体では 39%が基準値未満となっている。

4　沖積土壌・砂質～壌質の有効態ケイ酸含量平均値は減少する傾向がみとめられ、今回調査で 14.7 mg と過去５回の調査の中で最も低い値となり、基準値 20mg も下回っている。基準値を下回った地点割合は 89%である（図２－左下）。

沖積土壌・粘質及び洪積土壌の有効態ケイ酸含量平均値も同様の傾向であり、今回調査で 29.2mg と基準値 50mg を下回っている（図２－右下）。

全体では 95%が基準値未満となっている。

［成果の活用面・留意点］

1　調査結果は、初回の調査から今回の調査まで調査地点が変更されていない 44 地点の水田についてとりまとめたものである。

2　ｐＨ、有効態ケイ酸含量の低いほ場では、石灰質資材、ケイ酸質資材を計画的に施用する必要がある。

3　交換性カリが低いほ場では、他の塩基とのバランスを考慮しつつ、カリが多く含まれる堆肥やカリを含有する資材等の施用を進める。

［具体的データ］

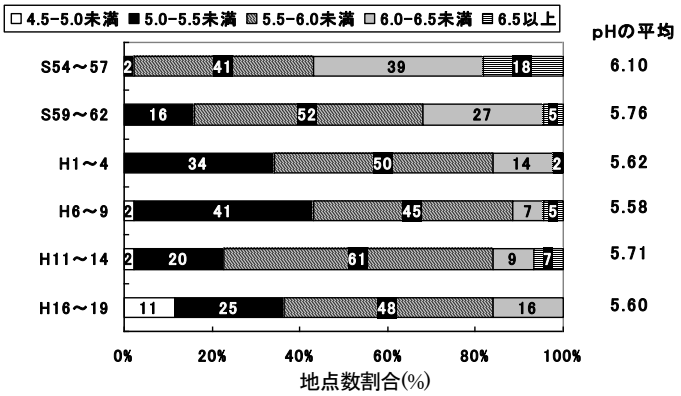

図１　作土中のｐＨの推移

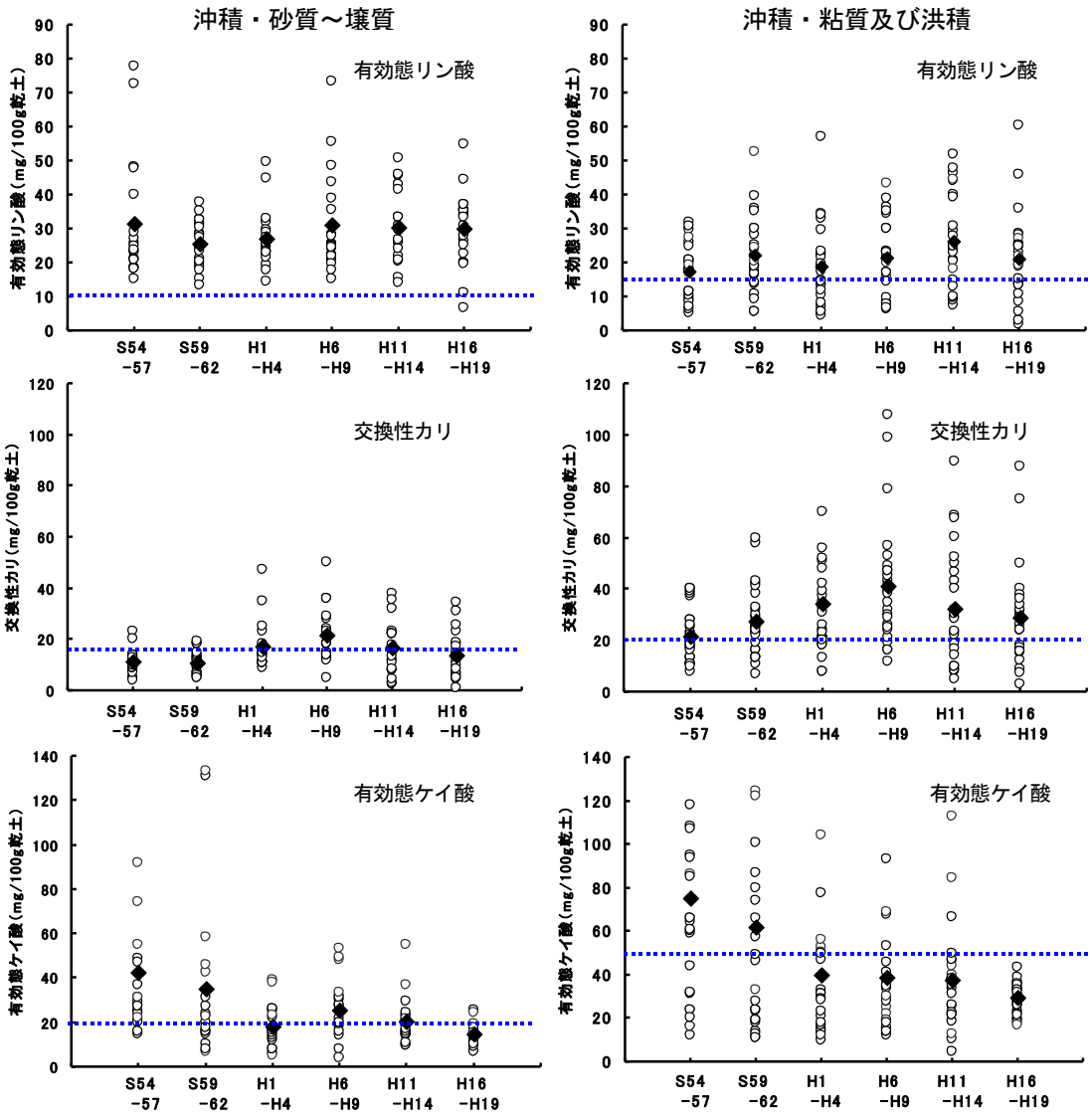

図２　作土中の各種養分の推移

注）図中の点線は各養分の土壌別基準値を示している

注）有効態ケイ酸の分析：S54～H9 まで酢酸ﾊﾞｯﾌｧｰ抽出、H11～H19 までリン酸ﾊﾞｯﾌｧｰ抽出

［その他］

研究課題名：土壌保全対策事業　土壌機能モニタリング調査

予 算 区 分：国交（H16～H17）、県単（H18～H20）

研 究 期 間：平成 20 年度（平成 16～20 年）

研究担当者：小池潤、沼田益朗（農業技術課）、山田宗孝、中田均

発表論文等：なし

平成２４年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議　関東東海・土壌肥料部会　参加及び宿泊申し込み

	機関名	氏名	役職	連絡先	部会参加 11月5日(月) 13:00-17:15 中央研大会議室	情報交換会参加 同日 18:00から つくば事務所 食堂にて 参加費3，000円	宿泊申し込み 宿泊日、性別、希望する部屋のタイプなどご記入ください	宿泊開始日	最終宿泊日 ※1泊の場合は宿泊開始日と同日付を入力してください。	（備考）	性別	希望がある場合記入 希望のため必ずではありません。（評価委員、講師等その他の理由による場合は、その旨付記ください。配慮してもらえる可能性があります）
例	××研究所	××太郎	部長	111-111-1111	○	○	○	2012/11/5	2012/11/5	※1泊の場合	男性	交流棟希望
例	△△センター	△△二郎	チーム長	222-222-2222	○	○	○	2012/11/4	2012/11/5	※2泊の場合	男性	国内棟　二人部屋一人利用希望
例	茨城県○○試験場	○○三郎	室長	333-3333	○	○	×					
例	□□大学	□□花子	教授	444-444-4444	○	×	○	2012/11/4	2012/11/5	※2泊の場合	女性	交流棟希望
例	◆◆研究会	◆◆雪子		555-555-5555	○	○	×					
例	●●会社	●●四郎		666-666-6666	○	×	×					

部会、情報交換会、宿泊申込期限　**10月24日(水)午後5時まで**に部会事務局(hasimoto@affrc.go.jp) にメール添付ファイルとしてお知らせください。